

競 技 注 意 事 項

1 競技規則について

- (1) 本大会は、2026 年公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項により実施する。
- (2) 本大会実施種目のうち、棒高跳および中学・高校種目を除く投てき種目については WRk 競技会とする。
- (3) [TR4.4(参加の拒否)]のうち[TR4.4.2]は本大会では適用しない。ただし、[TR4.4.3]については適用する。
- (4) シューズについては、審判長および競技役員はいつでもシューズチェックをすることができ、競技者はその指示に従わなければならない、明らかに規則・規程違反のシューズや疑わしいシューズは、チェックや回収の対象となることがある。競技後にシューズの違反が認められた場合は、審判長が「失格」と判断し、記録が取り消されることがある。
※競技用靴・靴底厚さについては、ルールブック TR5.2 を参照のこと。

2 練習について

- (1) 練習は、補助競技場または雨天練習場を使用すること。ただし、雨天練習場を使用する際は、走る方向を一方通行とし、危険防止に努めること。
- (2) 跳躍や投てきの練習は、招集完了後、役員の指示に従って行うこと。
- (3) 本競技場での練習可能時間は、競技場開場時刻から最初の競技開始時刻の 40 分前までとする。
- (4) 練習会場での練習は、事前に注意事項を確認し遵守するとともに事故防止には万全を期すこと。

3 招集について

- (1) 招集所は、競技場第 4 ゲート外に設ける。ただし、棒高跳については競技場内棒高跳ピット付近とする。
- (2) 各種目の招集開始時刻・完了時刻は、プログラムの競技日程表に記載されている。
- (3) 携帯電話・スマートフォン・タブレット等の電子通信機器は、招集所内・競技エリア内に持ち込まないこと。
- (4) 招集の手順
 - ① 競技者は、招集開始時刻に招集所で待機し、競技者係の点呼を受ける。その際、アスリートビブス、競技で使用するシューズの確認を受ける。
 - ② 代理人による招集は一切認めない。ただし、同日に 2 種目以上にわたって同時刻に出場する競技者は、第 1 種目の招集開始時刻前まで、に本人が所定の「**多種目同時出場届**」を競技者係(招集所)へ提出し、併せて招集を受けることができない種目の点呼(アスリートビブス・競技で使用するシューズの確認)を受けておくこと。
 - ③ 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該種目に出場する意思がないものとみなし処理する。
- (5) リレー種目について
 - ① 「**オーダー用紙**」は、その種目の第 1 組目の招集完了時刻の 1 時間前までに競技者係(招集所)に提出すること。なお、「オーダー用紙」が制限時間内に提出されない場合は、出場する意思がないものとみなし処理する。
 - ② 出場メンバー全員が点呼を受けること。ただし、他種目に出場している場合は、上記(4)②に準ずる。
 - ③ 混合 4×400m の全ての走者は、右腰に腰ナンバーをつけること。
 - ④ ユニフォームは同型・同色を原則とする。形状は統一する必要はないが、デザイン・配色は統一すること。
- (6) 招集所から競技場所への移動は、競技者係の指示に従うこと。
- (7) やむなく欠場する場合は、招集開始時刻までに「**欠場届**」を招集所に提出すること。
※「**多種目同時出場届**」「**欠場届**」「**リレーオーダー用紙**」はプログラム巻末に綴じているが、不足が生じた場合は正面玄関前 TIC で受け取ること。

4 競技進行について

- (1)トラック競技のレーン順および跳躍競技・投てき競技の試技順は、すべてプログラム記載左側に示された番号順とする。なお、準決勝以降の組み合わせは、すべて番組編成員が行い、大型映像装置で発表するとともに athleteranking.com に掲載する。競技者は、招集開始時刻に招集所で待機し、競技者系の点呼を受ける。その際、アスリートビブス、競技で使用するシューズの確認を受ける。
- (2)競技について
- ①競技結果については、場内アナウンスと大型映像装置で発表するとともに athleteranking.com に掲載する。
 - ②当該種目出場の競技者以外は、競技エリア内に立ち入ることができない。
 - ③スパイクピンの本数は 11 本以内とし、長さは 9mm 以内のものを使用すること。ただし、やり投については、12mm 以内とする。また、先端近くで、少なくとも長さの半分が、4mm 四方の定規に適合しなければならない。
 - ④アスリートビブスは配布された大きさのままで、必ず胸部と背部につけること。ただし、跳躍競技に出場する競技者は胸部または背部だけでよい。
 - ⑤不正スタートについては、一度の不正スタートでもその責任を有する競技者は失格となる。
 - ⑥トラック競技の短距離種目では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン(曲走路)を走ること。
 - ⑦4×100mのマーカーは、主催者が準備し、競技前に各コーナーで出発係が配布する。競技終了後自チームのマークを前走者が取り除くこと。
 - ⑧フィールド競技において、近接の観客席に「コーチ席」を設けるので、競技者への助言はすべてコーチ席で行うこと。
 - ⑨競技区域内(収集所を含む)に携帯電話・スマートフォン・タブレット等の電子通信機器を持ち込むことはできない。また、競技エリアで助力を与えたり受けたりしている競技者は失格の対象となる。ただし、フィールド競技に出場している競技者が、それ以前の試技の映像を見るために、コーチ席から録画再生機器等を手に取り、その付近で操作する場合に限り、競技区域内に持ち込むことを認めるが、通信通話機能を使用した場合は失格となる場合がある。なお、メインスタンドにおいての受け渡しする場合は、指定されたエリアでのみ認める。その際、事故等が起こらないように安全面には十分配慮すること。また、事故等が起こった場合、主催者は責任を負わない。
 - ⑩競技場内の練習は競技役員の指示に従うこと。
 - ⑪棒高跳について

(ア)バーの上げ方は、最後の一人になり、優勝が決まるまでは下の通りとする。

種別	練習	1	2	3	4	5	6	7	以降
一般男子		4m80	5m00	5m10	5m20	5m30	5m40	5m50	10cmずつ
高校男子		4m20	4m40	4m50	4m60	4m70	4m80	4m90	10cmずつ
女子		3m40	3m50	3m60	3m70	3m80	3m90	4m00	10cmずつ

※同記録による 1 位決定のバーの上げ下げは、5cm とする。

(イ)招集は、競技場所(棒高跳ピット付近)で行う。

(ウ)練習については、競技場内棒高跳ピットにおいて、24・25 両日とも競技場開場時刻(7 時 45 分)から招集開始時刻(10 時 50 分)まで行うことができる。

(エ)ボールの搬入・搬出は、第 4 ゲートより行うこと。

⑫走幅跳については、ホームストレート側の A ピットで行う。

5 競技用具について

- (1)棒高跳用ポール・やり以外の競技用具は、競技場備え付けのものを使用すること。
- (2)やりは競技場備え付けのものを準備するが、検査を受けて自己の物を使用してよい。その場合、出場競技者全員で共有できるものとする。検査時刻は、競技開始時刻の 90 分前から 60 分前までとし、第 2 ゲート外側の用器具庫入口で行う。なお、持ち込んだやりは、競技終了後、競技場所または第 2 曲走路付近の用器具庫で返却する。

6 抗議について

抗議は、日本陸上競技連盟競技規則[TR8]に基づき、所定の手続きをとるものとする。

7 表彰について

- (1)表彰式については、棒高跳・ハンマー投のみ実施する。3位までの入賞者は、競技終了後、正面エントランスロビーに集合すること。
- (2)棒高跳・ハンマー投以外の種目における3位までの入賞者は、正面エントランスロビー賞状受取場所で賞状を受け取ること。

8 一般的注意事項

- (1)競技場開場時刻は、2日間とも7時45分とする。
- (2)競技者・補助員・競技役員以外は、競技エリア内に入ってはならない。また、競技者は競技役員の指示がない限り本部席前を通過しないこと。
- (2)応援は競技運営に支障がないように行うこと。特に、メインスタンドや各フィールド種目競技場所付近では十分注意すること。
- (3)更衣室の使用は、更衣のみとし使用後は速やかに退室すること。また、更衣室の清潔保持につとめ、ゴミ等は必ず持ち帰ることとともに私物は一切置かないこと。
- (4)競技中に起こったケガについては、本部医務室で応急処置のみ行うが、以降の責任は負わない。また、健康上の問題が生じた場合は、競技役員に申し出て救護室を利用することができる。
- (5)トラック競技のフィニッシュ後のスタート地点への移動およびフィールド競技の競技場所からの移動については、競技役員の指示に従うこと。
- (6)落雷の危険があると判断された場合や Jアラートが発令された場合、競技を中断することがある。
- (7)各チーム(学校)は、待機場所の清掃を行うこと。また、それぞれで出たゴミは、確実に持ち帰ること。
- (8)貴重品、荷物類は、各自・各チーム(学校)で管理し、盗難等には十分注意すること。
- (9)個人情報の取り扱いについて
 - ①本大会に関して寄せられた個人情報は、本大会の目的以外に使用しない。
 - ②出場エントリー完了により、上記①の取り扱いに承諾を得たものとし、氏名・所属・記録を紹介する。また、本大会が認めた報道機関にも公表する。なお、入賞者は報道機関の取材を受けられることがある。
 - ③本大会が認めた報道機関が撮影した写真等が、新聞・ホームページ等で公表されることがある。